

令和 4(2022)年 3 月 18 日
株式会社フォーバル
海外ディビジョン

ベトナム・カンボジア
状況レポート(3 月)

企業経営を支援する次世代経営コンサルタント集団で、中小企業の DX アドバイザーのリーディング・プレーヤーである株式会社フォーバル(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長:中島 将典、資本金:41 億 50 百万円、東証一部上場【証券コード:8275】)では、宮城県内企業・団体等の皆様にお役立ていただくため、弊社海外拠点があるベトナム・インドネシア・カンボジア・ミャンマーを中心に東南アジア圏それぞれの地域における、現地情報をご紹介します。今回はベトナムとカンボジアを中心にご紹介します。

・東南アジア各国の新型コロナウイルス感染・状況

国	感染者数/1 日※	状況
ベトナム	239,706 人 増加傾向 (3 月 8 日~3 月 14 日の平均) 先月対比+163,490 人	2P にて詳細記載
インドネシア	18,574 人 減少傾向 (3 月 8 日~3 月 14 日の平均) 先月対比-30,267 人	ジャカルタでは、活動の制限規制(下から 2 番目のレベル 2)を、3 月 21 日まで継続。経済活動の活発化に向けた規制緩和。
マレーシア	30,490 人 増加傾向 (3 月 8 日~3 月 14 日の平均) 先月同時期対比+2,211 人	4 月 1 日以降はマレーシアがエンデミックへの移行期間へ入るとし、ワクチン接種を完了していれば隔離無しでの入国も可能とすることを発表。
カンボジア	238 人 減少傾向 (3 月 8 日~3 月 14 日の平均) 先月同時期対比-252 人	P4 にて詳細記載
ミャンマー	986 人 減少傾向 (3 月 8 日~3 月 14 日の平均) 先月同時期対比-1,947 人	外出時のマスク着用義務や夜間外出禁止、集会禁止、入国ビザの発給停止などの各種制限措置を 3 月 31 日まで延長。3 月 26 日まで日本発ヤンゴン行は運休。

※出所:WHO、カンボジア保健省の情報を元に弊社作成

・ベトナム

規制とルール

ホーチミン市内では、3 回目のワクチン接種が始まっており、3 月末までに 18 歳以上の全員が接種完了する目標としています。各行政区ごとに感染リスクを 4 つのレベルに分けて規制をおこなっています。

感染リスク	ゾーン	規制
低い	グリーンゾーン	レストラン・飲食店営業
注意が必要	イエローゾーン	レストラン・飲食店が店内の 50% 席提供
高い	オレンジゾーン	飲食店・レストランがデリバリーのみ
非常に高い	レッドゾーン	飲食店・レストランが停止

街中の状況

ホーチミン市内では、3 月 6 日時点、265 丁がグリーンゾーン、43 丁がイエローゾーン、4 丁がオレンジゾーンとなっています。ホーチミンの感染者が多くなっていますが、病院への入院などではなく自宅療養を行って回復したあと、7 日間の自宅隔離後に通常の外出及び出社が可能となります。自営業の方は、2 日間で重症化しなかった場合は、営業が許可されており、これまでよりも緩和されています。ハノイ市内では 3 月 4 日時点 326 丁/579 丁 (56% 占め) がオレンジゾーンです。それ以外、66 丁が グリーンゾーン、187 丁がイエローゾーンとなっています。

3 月 8 日の国際女性デーの日にハノイでは、ショッピングモールやレストランなどに外出する人が少なくなりました。一方ホーチミンではハノイと違い、日本食・喫茶店・ショッピングモールなどが混雑しました。ホーチミン市内の道では、大渋滞が起こりレストランも満席となりました。一番予約しにくいレストランは、HOKKAIDOU SACHI 及び GYU SHIGE で、週末や祝日時常に満席となっています。

日本食品輸入会社へのヒアリングによると、高額な食品(高級品)はホーチミン市よりハノイ市のほうが売れるとコメントがあり、実際ハノイの店舗では、日本産の高額な水産加工品など売り切れが目立ちました。



・混雑する道路(ホーチミン市内)

飲食店の状況

コロナ感染拡大とあっても、規制に基づいて営業しているレストランや屋台の飲み屋などでは、多くの人で混み合っています。逆に外出に注意している人に向けて、新鮮な水産物をデリバリーするお店(HOANG GIA SEAFOOD)が人気になりました。新鮮なシーフードを提供する店として有名です(生きている水産物のみ提供)。注文する際に依頼をすれば、料理もしてもらえて、自宅までデリバリーを行っています。



・HOANG GIA SEAFOOD (<https://haisanhoanggia.com/>)

小売店の状況

ホーチミンのVINCOM Mega Mall Thao Dien では、新たに大手日本食品輸入商社であるAKURUHI社が寿司売り場(sushi corner)をオープンしました。ここでは、寿司セットや刺身セットなどを販売しており、人気が高いのは、サーモンの刺身・いくらとなっています。また、他にYEN MARKET(スーパー)では、日本の高級輸入食品を販売しており、ここでは、ホタテ・ほっき貝・日本酒が売られています。



MEIWA shop は、冷凍食品を多く取り扱っており、加工品(味ついていた水産加工品)が、価格的にも高くなく、日本の高品質の物をベトナム価格で購入できるとあって人気が高くなっています。



・MEIWA shop 販売商品 (<https://meiwajpshop.vn/>)

・カンボジア

規制とルール

感染者数は減少していますが、現在も COVID-19 の制限は継続しています。大規模なイベントなどは、人数制限なしで行うことが可能ですが、ソーシャルディスタンスを守る必要があります。公共エリアでは継続して、マスクの着用が必須です。各州ごとにリスクレベルの高い順に地域を赤、オレンジ、黄色のゾーンとして指定することを許可しています。地域ごと COVID-19 の感染者数に応じた規制が可能となっており、夜間外出禁止令や不必要な移動や商業活動の短期禁止など、より厳しい規制を実施する場合があります。首都プノンペンでは、学校、商店街、企業などの施設に入る際に、ワクチン接種カードを提示するよう求めています。

カンボジア政府は、観光ビザ、電子ビザ、およびビザの免除の発行を再開しましたが、到着時のビザサービスは停止されたままです。短期ビザの申請者は、少なくとも 50,000 ドルの医療保険の証明と、旅行が目的という証拠を提示する必要があります。マレーシア、タイ、シンガポール、ベトナムなど ASEAN 地域を中心にフライトを再開しています。

街中の状況

クメール正月(4月14日～16日)が近づいていることから、タイなどの近隣国と国境を接する複数の州では、出稼ぎ労働者の帰国が多くなっています。帰国してくる出稼ぎ労働者のうち、多くはワクチン未接種となっており、新型コロナウイルス感染者数も増加しています。今後、市中感染の蔓延に繋がる可能性もあり各州は懸念しています。プノンペンでは、コロナ前とほぼ同様の生活に戻りつつあり、街中の人の数や交通量なども増えています。継続して、店舗への入店時には、ワクチン接種証明と検温及び消毒が求められます。



・プノンペン市内の様子

飲食店の状況

カンボジア国内で、NOMSG(食品添加物:グルタミン酸ナトリウムを使っていない)やベジタリアン、ノンフライなど健康志向の高い消費者向けに展開をおこなっている ParkCafe が、プノンペン市内に新たなお店をオープンしました。若い消費者を中心に、これまで以上に健康志向が高まり話題となっており、今後の飲食店のキーワードになりそうです。



ParkCafe 公式サイト引用 : <https://unitedfood.com.kh/en/park-cafe/>

小売店の状況

2月15日から3月14日まで、プノンペン市内の2つのAEONモール及びAEONonline(ECサイト)でJAPANフェアが開催されました。毎年継続して行われており、今年も食品を中心に多くの物が販売されました。コロナ感染者数も、現在は減少傾向で落ち着いている事もあって、フェアに立ち寄るお客様も多くいました。



・AEON PHNOMPENH の様子